6.

教育プロジェクト

- 1)国際教育交流プログラム「AIT ワークショップ」
- 2) 専任・特任教員担当講義

1)国際教育交流プログラム「AIT ワークショップ」

開発とジェンダーの問題を海外で実践的に研究するプログラム

17年目を迎える国際教育交流プログラム

AIT ワークショップは、ジェンダー研究所と、タイのアジア工科大学院大学 (Asian Institute of Technology (AIT)) とにより実施されている、国際教育交流プログラムである。

2001 年に、ジェンダー研究センター(現ジェンダー研究所)所属教員と、AIT「ジェンダーと開発」 専攻の日下部京子教授らの尽力によって始められ、2004 年には、本学と AIT との間で大学間学術交流 協定が結ばれた。以降、協定に基づき、タイ AIT で実施されるワークショップへの本学博士前期課程院 生を主とする派遣と、AIT 大学院生の日本国内での研修受入による、大学院生を主体とした研究交流事 業をほぼ毎年実施している。

2012 年度から、AIT ワークショッププログラムは、ジェンダー研究センターが従来提供してきた大学院博士前期課程科目「国際社会ジェンダー論演習」として単位認定が始まった。2013 年度はサマープログラムを活用して AIT 院生の日本国内研修を実施し、2014 年度からは大学院前期課程科目「フィールドワーク方法論」を国内事前研修として取り入れ、本年で16回目を迎えた。

グローバルなフィールドでの理論的検討と実践的学習

本教育プログラム(「国際社会ジェンダー論演習」)の目的は、開発とジェンダーにかかわるグローバルな課題群の分析方法や視座、海外におけるフィールド調査の基礎を、実践的に学習することにある。 大学院講義の事前学習(関連機関での調査)、調査して得た知見の英語によるプレゼンテーション、報告書作成という一連の調査研究の研修を通して、修士論文作成のための技能を習得する。加えて、英語によるインタビュー、プレゼンテーション、論文執筆の訓練機会にもなる。

このような充実したプログラムを通して、参加者は開発の問題をジェンダー視点から考察することの意義を皮膚感覚と理論的観点からより深く把握することができるようになる。また AIT に集まるアジア各国の院生の熱意ある議論スタイルや問題関心の多様さから刺激を受け、研究手法や語学のブラッシュアップへの動機づけを得る。その結果、研究者としての議論の組み立て方や調査方法、研究アプローチについて際立った効果が参加者には見られるのであり、本プログラムは比類のない教育効果をもっていると言える。

■AIT ワークショップ過年度実績

実施年度	研修テーマ
2001	Gender and Development ジェンダーと開発
2002	Gender, Work and Globalization ジェンダー、労働、グローバリゼーション
2003	Women, Globalization and Home-based Work 女性、グローバリゼーション、在宅労働
2004	Female Migrant Workers' Rights in Thailand タイにおける女性移動労働者の権利 【協定締結】
2005	Gender and Development in Thailand: Labor rights and violence against women タイにおけるジェンダーと開発:労働者の権利と女性に対する暴力
2006	〔実施せず〕
2007	Gender, Rights and Empowerment ジェンダー、権利、エンパワメント
2008	Thailand-Japan Interactive Research Actions by Using Gender Perspectives ジェンダー視点によるタイ・日本相互研究
2009	Gender and Policy: Through Thailand-Japan Interactive Analysis ジェンダーと政策:タイと日本の相互分析を通して
2010	Gender and Social Change: Comparative Analysis of Thailand and Japan ジェンダーと社会改革:タイと日本の比較分析
2011	Gender and Disaster ジェンダーと災害〔特別プログラム:本学でのシンポジウム開催〕
2012	Sexuality セクシュアリティ
2013	Global Justice, Women's Health and Prostitution グローバル・ジャスティス:女性の健康と売春
2014	1) Sexuality, 2) Gender and Poverty, 3) Education and Empowerment 1) セクシュアリティ、2) ジェンダーと貧困、3) 教育とエンパワメント
2015	Labor, Sexuality and Empowerment 労働、セクシュアリティ、エンパワメント
2016	Labor and Association from Gender Perspective ジェンダー・パースペクティブから見た労働と組織
2017	Sexual minority and migrant workers from gender perspectives ジェンダー視点から見たセクシュアル・マイノリティと移住労働者

▶ 2017 年度 AIT ワークショップ実施概要

「ジェンダー視点から見たセクシュアル・マイノリティと移住労働者」をテーマに実施

【概要】

セクシュアル・マイノリティと移住労働者をテーマにした 2017 年度の AIT ワークショップは、国内事前研修(大学院博士前期課程科目「フィールドワーク方法論」 $4/12\sim7/26$)、AIT 院生 2 名の受入($7/10\sim7/20$)、タイ AIT での研修($8/27\sim9/3$)、研修報告会(11/22)、報告書作成というプログラムで行なわれた。

日本とタイでのフィールドワーク実践によって、参加院生のフィールドワーク力は鍛えられ、その過程での調査や討議によって各自の研究テーマの深化に大きく貢献したものとなった。

【プログラム統括】板井広明(ジェンダー研究所特任講師)

【コーディネーター】高橋加織(博士後期課程ジェンダー学際研究専攻)

【履修生】赤澤詠子(博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース)

市川萌子(博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 地理環境学コース)

内山みどり (博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 地理環境学コース)

Aerin Elizabeth Lai Jia Qi(博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 ジェンダー論コース)

梁 藹文(博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース)

【AIT からの研修生】 Noorie Safa(修士課程)

Song Changhui(博士課程)

◇全プログラム日程

日程	内容
2017年4/12~7/26	フィールドワーク方法論(全 16 回)講師:大橋史恵(武蔵大学准教授)
7/10~7/20	AIT 院生 2 名来日研修
8/27~9/3	タイ AIT 研修
11/22	研修報告会
2018年1月	報告書完成



7/12「フィールドワーク方法論」での AIT 生のプレゼンテーション

▶ 2017 年度 AIT ワークショップ研修報告

国内事前研修

2017 年度の AIT ワークショップは「ジェンダー視点から見たセクシュアル・マイノリティと移住労働者(Sexual minority and migrant workers from gender perspectives)」をテーマに、博士前期課程ジェンダー社会科学専攻の 5 名が参加した。ワークショップのコーディネーターを担ったのは高橋加織(博士後期課程ジェンダー学際専攻)である。

大学院科目での国内事前研修は 4/12 (水) $\sim 7/26$ (水) に全 16 回行なわれた、大橋史恵講師(武蔵大学准教授)による「フィールドワーク方法論」である。資料の探し方や扱い方、細かな研究倫理の問題等をはじめ、論文における引用の仕方や文献リストの作り方、フィールドワークのプランニングや実践における注意点といった基礎的事項が講じられた。岸政彦・石岡丈昇・丸山里美編『質的社会調査の方法:他者の合理性の理解社会学』(有斐閣、2016 年)も利用しつつ、『AERA』など一般週刊誌におけるLGBT 特集や、アジア女性資料センターの発行する『女たちの 21 世紀』に収録された批判的論稿がとりあげられた。またテーマに即して、5 月の東京レインボープライド(パレード、渋谷区)と 7 月のレインボー・リール東京(映画祭、新宿区など)においてフィールドワークが行なわれた。

研究交流研修

7/10(月)~7/20(木)には、Noorie Safa(修士課程)、Song Changhui(博士課程)の2名がAITから来日して研修を行なった。IGSを含めたお茶大内の施設訪問、熊谷圭一教授との面談や棚橋訓教授の講義への参加、国際移住機関(IMO)や難民事業本部(RHQ)などの訪問、レインボー・リール東京(映画祭)への参加などを行なった。

8/27 (日) ~9/3 (日) は本学の院生 5 名がタイにある AIT での研修にのぞんだ。タイに滞在中は、IOM Thailand Office、Empower Foundation、Association for the Promotion of the Status of Women、Thai Transgender Alliance、Thai Breastfeeding Center foundation、Duang Prateep Foundation を訪問・調査し、AIT の授業「Gender、Enterprise and Organization」や、「お茶大一AIT ジョイント・セミナー」で研究報告などをこなした。

研修報告会

11/22 (水) 12 時 20 分~13 時 30 分には板井広明ジェンダー研究所特任講師の司会のもと、高橋加織博士課程院生・コーディネーターが参加して AIT での研修に関する参加者報告会を開いた。参加院生 5 名が各自分担箇所を報告し、その後、質疑応答を行なった。いずれの院生も、取材先の個人情報の保護や取材のまとめ方など、前期に受講した「フィールドワーク方法論」の授業で得たことが大いに役に立ったと述べており、またタイ現地のシェルター、セックスワーカー向けのエンパワー事務所、持続可能な開発に基づく支援を行なう施設や母乳育児を推進する施設などを見学し、修士論文を書く上で必要な取材をある程度行なうことで、それぞれの研究対象の問題点などを明確化するのに、このワークショップは役立ったとのことだった。同世代の AIT の学生とのジョイント・セミナーは、さまざまなアプローチや知見を得られ、かつ活発な議論を行なわれていたことが刺激的だったようである。

研修報告会での報告をもとにして、現地での調査や授業風景などの画像、現地情報などを取り入れた報告書を2018年1月に完成させた。

◇フィールドワーク方法論(全 16 回)講師:大橋史恵(武蔵大学准教授)

回	実施日	内容
1	4/12	オリエンテーション&自己紹介
2	4/19	文献講読(1)
3	4/26	第 1 回フィールドワークのための準備
補講	5/7	第1回フィールドワーク 東京レインボープライド (渋谷区)
4	5/10	フィールドワークの振り返り
5	6517	文献講読(2)
6	5/24	文献講読(3)
7	6/7	資料調査の方法(図書館での実習)
8	6/14	各自のフィールドワーク計画発表(1)
9	6/21	各自のフィールドワーク計画発表(2)
10	6/28	各自のフィールドワーク計画発表(3)
11	7/5	第2回フィールドワークのための準備
12	7/12	AIT 学生たちとの研究交流
補講	7月半ば	第2回フィールドワーク レインボー・リール東京 (新宿区ほか)
13	7/19	インタビュー調査準備
14	7/26	インタビュー調査

◇AIT 生来日研修

実施日	内容
7/10	東京到着、お茶の水女子大学訪問(グローバルリーダーシップ研究所、歴史資料館、グローバル協力センター、ジェンダー研究所)、歓迎会
7/11	国際移住機関(IMO)、東京レインボープライド訪問
7/12	「フィールドワーク方法論」での AIT2 名のプレゼンテーション レインボー・リール東京(映画祭)参加
7/13	「特別非営利法人ぷれいす東京」訪問
7/14	熊谷教授との面談、棚橋教授の講義聴講
7/15	特定非営利活動法人 SHIP 訪問
7/16	休講日(オープンキャンパスのため)
7/17	休講日(オープンキャンパスのため)
7/18	箱根日帰り散策
7/19	RHQ難民事業本部訪問、送別会
7/20	帰国

◇タイ研修日程(8/16~24)

日程	訪問先等
8/27	バンコク、AIT 到着
8/28	「Gender, Enterprise and Organization」の授業への参加 ジェンダーと開発専攻の新入生歓迎会への参加
8/29	お茶大– AIT ジョイント・セミナーでのプレゼンテーション Ayuttahaya 遊覧船とディナー
8/30	IOM Thailand オフィス訪問 Thai Transgender Alliance 訪問
8/31	Association for the Promotion of the Status of Women 訪問 Empower Foundation Phatphong 見学
9/1	Thai Breastfeeding Center foundation 訪問 Duang Prateep Foundation 訪問
9/2	バンコク観光
9/3	帰国

◆ AIT ワークショップ参加大学院生の声(『2017 年度 AIT ワークショップ実施報告書』から抜粋)

「ジェンダー視点からの社会課題解決の糸口を探りたい」

今回訪問した団体が扱っていた社会課題は移民問題、DV、セクシュアル・マイノリティ、貧困、母子関係など多様でした。これらの多様な問題をジェンダーという視点から見ていくことは経済や法律などの既存のメインストリームからの観点だけでは見えてこない新たな視点を提供するものであると団体訪問を通じて強く感じました。・・・今後は今回の実習の経験を活かして、これまで目を向けられていなかった NGO の役割やジェンダー視点からの課題解決を探ることを意識して自らの研究活動を進めていきたいと思っております。この実習経験が研究活動のみならず、他の様々な活動でも活かしていけたら良いなとも考えています。(M1 赤澤詠子)

「体験から醸成される思考を、グループでのフィールドワークにより言語化できた」

私はいつも単独での FW や訪問が多く、今回のような集団で実習に行く機会がありませんでした。・・・ 普段一人だと、調査やインタビューで感じたこと以外にも、その地域の人びとや風土、文化、街の雰囲気やにおいなど自分の中で感じたことを、言語化せずに終え・・・「なぜ自分がそう思考するのか」ということを考えなかったことも多かったです。しかし、何気ない会話の中でも今回一緒に実習に行ったメンバーそれぞれの経験や、知識、考え方などから「なぜ自分がそう思考するのか」について改めて考え、しっかりと言語化できたのはとてもよい機会だったと思います・・・今回の実習で、一緒にいったメンバーから学んだことを自分の研究の調査にも活かしていきたいです。(M1 市川萌子)

「現地での体験すべてが、私の価値観をゆさぶり、風穴をあけてくれた」

実習を通して私たちに求められていたのは・・・いわば批判的思考でもって物事にあたることだったのかもしれない。帰国後しばらくしてこの答えにたどり着いた。・・・現地での行程の全てにおいて、私は

この批判的思考を実践できていたのだろうか。・・・フィールドで見聞きしたこと、実務家からのお話、現地で得たこと全てをもとに、問いに変換し、質問していくというチャンスは数多あった。それを逃さず実行していく貪欲さが私には足りなかった。・・・今後への課題感はあるものの、現地でであった人々や見聞きしたこと全てが私の凝り固まっていた価値観をゆさぶり、風穴をあけてくれたような気がする。目的地間の移動時間でさえ、参加学生メンバーであれやこれやと意見を交換したり、思いを共有し合ったりできたことは実習中のモチベーションだけでなく、帰国後の研究への向き合い方にもつながった。(M1 内山みどり)

「自分自身の中に、新たな視点が生まれた」

一番印象深いことは習ったことではなく、自分自身の中にものを見る視点がもう一つ生じたことであると考えています。シンガポール出身ということは自分自身にとって有意義なこと、特別な意味を持つものだと思いませんでした・・・が、タイに到着した際・・・私のホームだと強く体験しました。・・・一方、矛盾であるかもしれませんが、東南アジア諸国出身の方々は私に話した際、我が国は発展された国である発言が多かったです。そういう場合に、私の「東南アジアは一致され、皆同じだ!」という考え方は再び揺さぶりました。タイに滞在したその8日は何回もその2つ極めた点の間に振動していました。・・・2点目の視点はパッポンの見学に気づいたことです。・・・EMPOWER団体に訪問した時に会った活動者は「Sex work is work」というスローガンの下にアドボカシーを行い、「かわいそう」というコメントから離れないと、セックスワーカーたちは永続にあるべき権利が与えられないと批判していました。それは私にとって印象深かった。(M1 Aerin Elizabeth Lai Jia Qi)

「AIT の学生との交流で、積極的な英語でのコミュニケーション能力の必要性を実感」

今回のプログラムを通じてたくさん勉強した他、自分なりの反省点も見つけ出しました。AIT の学生さんと一緒に見物している時、ある学生さんわざわざ私と話かけて、私の研究にありがたい意見、そして参考になる資料まで教えてくれました。この熱意にとても感動しました。もう少し討論したいと思ったが、自分の語学力が不足でなかなか深く交流はできなかったです。タイに行く前には色々準備したけれども、英語でのコミュニケーションはスムーズになれず、ちゃんと自分の意見を完璧に話すことはできなかったです。語学の勉強は日々の努力を重ねてからできるものだと痛感しました。また、学問に対し、常に積極的な態度をもって人々とコミュニケーションを取ることもこれからの研究と勉強の際に身に付けておきたいと思います。(M1 梁藹文)



2) 専任・特任教員担当講義

《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

足立眞理子(教授)

申琪榮 (准教授)

ジェンダー政治経済学(前期) ジェンダー政治経済学演習(後期) ジェンダー学際研究報告・基礎(通年) ジェンダー学際研究報告・発展(通年) ジェンダー学際研究論文指導(通年) 比較政治論(前期) 比較政治論演習

《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

足立眞理子 (教授)

板井広明 (特任講師)

ジェンダー社会経済学(前期) 開発・ジェンダー論特論(前期) 国際社会ジェンダー論演習(後期集中)

申琪榮 (准教授)

開発・ジェンダー論特論(前期) ジェンダー基礎論(前期) フェミニズム理論の争点(前期) フェミニズム理論の争点演習(前期) ジェンダー立法過程論(後期)

《人間文化創成科学研究科博士前期課程共通》

ラウラ・ネンツィ (特別招聘教授)

リーダーシップ国際演習 I

《学部》

足立眞理子(教授)

文教育学部 グローバル化と経済(1学期)

申琪榮(准教授)

リベラルアーツ8 政治・政策とジェンダー(後期)

《英語によるサマープログラム 2017》

板井広明 (特任講師)

Special Lectures in Humanities and Sciences I